

■小林一茶 俳人。苦渋に満ちた過酷な生涯のなか、弱者へのいたわりと童心を保って、人生詩の傑作を遺した。

こばやし いっさ

・ ・ ・ ・ ・ 1763 = 信濃国水内郡柏原村で、農業弥五兵衛の長男に生まれる。

蘭銭初輸入・1765 = 2歳：母を失い、祖母に育てられたが、

・ ・ ・ ・ ・ 1770 = 7歳：継母がきて義弟が誕生してからは、

田沼意次老中1772 = 9歳：

継母との不和が絶えず、内向的で孤独な性質が養われた。

・ ・ ・ ・ ・ 1777 = 14歳：見かねた父から江戸へ奉公に出され、以後、10年間の消息は不明。

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 18歳：

意知刺殺事件1784 = 21歳：_この頃には、プロの俳人として立身することを考えるようになり、

田沼意次失脚1786 = 23歳：

寛政改革始・1787 = 24歳：_葛飾派小林二六庵竹阿に学び、秘書「白砂人集」を書写。今日森田庵元夢の執筆をつとめる。

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 25歳：_一茶作品の初出の安袋(元夢)編「俳諧五十三駅」刊。

異学の禁・・・1790 = 27歳：

混浴禁止・・・1791 = 28歳：15年ぶりに帰省し、「帰郷日記」を著述。

ワグマン来日・1792 = 29歳：江戸をたつて、_関西、西国、九州筋へ俳諧修業に出かけ、

松平定信引退1793 = 30歳：

_旅中最初の撰集「たびしうゐ」や「さらば笠」を編み、

古事記伝・・・1798 = 35歳：*7年に及ぶ行脚を終えて江戸に戻って宗匠となり、洒脱な作風で俳壇に知られるに至った。

蝦夷地直轄始1799 = 36歳：

_しかし都会の風はなお田舎者一茶に冷たく、夏目成美の庇護を受けてようやく生計を立て、房総筋の知人宅に寄宿を重ねる流浪の生活であった。

宣長没・・・1801 = 38歳：久しぶりに帰郷して父の死にあい、「父の終焉日記」を著述。

その後、義弟と遺産分配をめぐる争う。この間も句作や俳交は頻繁に行われる。

フェトン号事件 1808 = 45歳：

ゴロブニ拿捕 1811 = 48歳：*この年の番付では、江戸を代表する俳人となっている。

浮世床・・・1813 = 50歳：ようやく和解して故郷に落ち着く。

黒住教・・・1814 = 51歳：_娘ほど若い女性と結婚し、初めての幸せを味わうも束の間、江戸俳壇への決別記念集「三韓人」の出版のためもあって長期に江戸に出るなど、半分は不在という状況で、

伊能測量終・1816 = 53歳：耐えられず妻が家出したりするも仲睦まじく暮らす、この年誕生した長男がすぐに死去。

杉田玄白没・1817 = 54歳：

水野忠成老中1818 = 55歳：_長女が誕生するも、

群書類従完結1819 = 56歳：*痘瘡のため死去。その死を記念して悲喜転変の思いを綴った「おらが春」は、彼の最高傑作として名高い。

_晩婚に焦ってなお子づくりに専念するも、二・三男も出生後まもなく死去した上、

シボ^ボ朴来日・1823 = 60歳：_妻までも失う。

シボ^ボ朴鳴滝塾1824 = 61歳：_再婚に破れ、

・ ・ ・ ・ ・ 1826 = 63歳：_3度目の妻をめぐったが、

日本外史・・・1827 = 64歳：*家を焼失した直後に、焼け残った土蔵のなかで、苦渋に満ちた過酷な生涯を終えた。